

代表インタビュー | 代表 白波 凛

## —— 思想を育て、 物語でつながる社会へ



代表／思想開発者という肩書きをもつ白波凛は、一見すると静かな人物だ。しかし、その穏やかな語り口の奥には、妥協を許さない探究心が宿っている。「思想は育てるものです。急いで決めるものではなく、何度も手に触れ、悩み、育ち、また変わる。植物のサイクルと同じなんです」と彼は微笑む。

### 自由人5箇条に込めた願い

会社では「AI時代の自由人5箇条」を掲げている。

ルールより実験、モノより思考、逆境を遊ぶ、群れずに響く、熱を資産に変える。

これらは、ただのスローガンではない。白波自身が、何度も自分の中で枯れては芽吹き、やがて信じるに至った“生き方の軸”だ。

「人は肩書きに依存して生きてきました。でも、これからは“どんな物語を生きたいか”が問われる時代です。思想を持つ人は、AIに追い越されません。むしろAIを相棒にして自由になれる」。

### 三つの事業で支える“物語の再生”

今の事業は三本柱だ。

#### ① コンサルティング

個人が“思想”を軸に、副業や小さな事業を立ち上げるための伴走。

「肩書きゼロでも、自分の物語を語れる人は強い。思想がある人は、どんな環境でも再生できるんです」。

#### ② 出版・情報配信

知識を“無形資産”として共有し、共感で広がる学びの場をつくる。

「文章は思想の化石ではありません。次の誰かの芽を育てる“土壌”になるんです」。

#### ③ バーチャル空間『無限の森』開発

思考や感情を視覚化し、対話を深める新しい知的空間をつくる試みだ。

「現実ではできない“物語創造”ができる場所。AIと人が協調する未来の学びの森です」。

### 肩書ではなく、物語でつながる社会へ

最後に、これからの社会について尋ねると、白波は静かに語った。

「目指しているのは、肩書で競い合う世界ではなく、物語が響き合う社会です。誰もが自分の物語を生き、自分のペースで芽吹き、また枯れ、そして再生していく。そんな循環の中にこそ、人の強さと美しさがあると思うんです」。

彼の言葉は、深い森の中で聴いた風のように静かで、しかし確かな力をもって胸に残る。

AI時代に失われつつある“人間の物語”。

それを取り戻すための会社が、いま静かに新しい森を育てようとしている。